JEASがファミリーセミナーを開催

「大切な人のためにも、生きぬいて！そのための防災講話」

工業会 日本万引防止システム協会（JEAS、稲本義範会長）は、1月16日に第2回JEASファミリーセミナー「大切な人のためにも、生きぬいて！そのための防災講話」をオンラインで開催した＝写真。

主催は交通機関と関連店舗の保安強化プロジェクト及び防災士などで、小学生から大人まで、教育関係者や警備・防犯設備の関係者など多数が視聴した。講師は専修大学文学部助教の鈴木比奈子さん。

講演の要旨は次の通り。

災害を考えるうえで重要なことは季節や時間。冬なのか、夏なのか。深夜なのか、昼なのか、夕方（通勤時間帯）なのか。関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災では、季節や時間によって三者三様の被害があった。

大事なことのひとつは『住んでいる場所の特徴を知る』こと。地形や土地利用が山なのか、丘陵なのか。あるいは傾斜地、水田、池、沼、湖、川、海などによって予想される災害が違う。山ならがけ崩れや土石流、噴火などで、川なら洪水、海なら高潮や津波が予想される。

続いて、令和6年能登半島地震の概要を示した。衛星からとらえた地表面の変化で、輪島市門前町鹿磯漁港では地盤が4㍍隆起した。次に2011年3月11日に発生した東日本大震災の概要を示した。書籍で東日本大震災を体験した女の子たちの体験談「ガールズ1000人のリアル震災体験」（魔法のiらんど、2011年11月発行）を紹介した。「優しいクラスメイト」の項では『地震当時クラスメイトのおかげで勇気をもらったという声』（11才）、「大切なもの…」では『お母さんを津波で亡くした女の子の声』（同）、「忘れないで」の項では『家族を津波で亡くした女の子の声』（同）を掲載。一部の内容を挙げた。

「優しいクラスメイト」…（略）そんな中で地震が来て。皆パニック状態でした。泣き声があちこちから聞こえて、先生の机から色んなものが落ちて、凄く怖くて、悲しくて。ただ泣くしかできなった。私は弱い人間だった。そんな私をクラスメイトが慰めてくれました。「大丈夫だよ」って…「私がいるよ」って…男子も同じように慰めてくれました。たったそれだけで不安も恐怖も無くなって笑顔でいれました。クラスメイトには本当に感謝しています。（略）

鈴木さんは「11才から12才の声をきいてどうでしたか？大切なこと、自分ができることはなんだろう？とぜひ考えてみてください。私は、わすれないこと、知ること、想像すること、よりそうこと、次に被害を出さないことーなのかな、と思いました」と述べた。

次にハザードマップについて。

ハザードマップは災害の起こりやすさを知る地図で、災害の被害予測図である。自分の地域がどういう被害を受けやすいのかがわかる。例えば、地震ハザードマップは揺れやすさ、液状化について。津波ハザードマップは津波範囲が書かれており、防災マップは、ハザードの予測情報と避難所や補給場所などの情報を重ね合わせたものだ。

ハザードマップはどこで見られるのか。①自宅に配布②各自治体のウェブページ③国土交通省ハザードマップポータルサイトで見られる。Yahoo!防災速報の防災手帳からも見られる。

そして、ハザードマップで気を付ける点は①市町村で浸水深の凡例の色が異なる②地図で直感的に危険性を知ると同時に、どういったところがそもそも危ないのか、という地形に対する直感性と地域の記憶も一緒に備えておくと良い―とした。

ハザードマップに関係する法律にも触れて「土砂災害防止法」は、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようとするもの―として、危険の周知には▽市町村地域防災計画への記載▽警戒避難体制の整備▽土砂災害ハザードマップ等による周知の徹底▽建造物の構造、開発、移転等宅地建物取引における措置―があると述べた。

次に『日頃の備え』について。

災害に備えるグッズを紹介した。0次の備えは『出かけるかばんにいれておく常時携帯品』で〝いつでももちあるく〟こと。1次の備えは『避難所へ行くときに持っていく非常持ち出し袋』で〝枕元に準備しておく〟こと。2次の備えは『災害発生後の生活を送るために必要な備蓄品』で少なくとも家族1日分の非常食は準備しておく。そして、それぞれ具体的なアイテムを掲げた。

◇

続いて『災害が起きそう！その時に誰の言う事が一番「効いた」のか』について考察した。

鈴木さんは「平成30年7月豪雨で役に立った手段では、携帯電話の通話、メール、テレビ、LINE、口コミなどが情報収集に役立った手段であり、つまり『個人』対『個人』の情報網が最も役に立った。『個人』が正しい情報を入手することが、災害時に重要な手段となりえます。では、それが間違っていたら？」と問題提起をして、正しい情報を入手することが重要とし「災害が発生すると、デマなどが流れます。自分もデマを回さないこと。拡散した人も逮捕される恐れがあります。正しい情報を入手しその後の生活に活かしましょう」と述べた。

正しい情報を入手するには、発生時は防災無線、緊急速報メール、防災メール。発生後は▽自治体のWeb ページ（市区町村、都道府県、内閣府など）（自治体のホームページは災害によりサーバーダウンしている可能性有り、近隣自治体で代行する場合もある）▽自治体公式アカウント（SNSのX、LINEなど）（SNSの速報性は非常に高い、うまく使えばとても役に立つ）―でありポイントは〝「公式」アカウント〟である。

このほか気象庁のホームページ「あなたの街の防災情報」、川の水位情報は国土交通省のホームページ「川の防災情報」も紹介した。

気象災害では「避難は早めに、暗くなる前に」と強調し「避難警報は全員が対象ではない。自分の家の条件、状況を把握しましょう。家にいても安全なひとは家にいていい」と話した。地震や洪水、土砂災害は建物の2階に、台風や竜巻、ミサイルは建物の1階に避難する。

次に『災害が発生した！その時に』について説明した。

例えば、1995年兵庫県南部地震での最も多い死因は、建物・家具による圧死で、建物と家具の倒壊を防ぐ対策を取れば、多くの命を守ることができた。

地震が起きたときのとっさの対応は①頭をまもる②避難路を確保する③揺れているときに火は消さない④避難時は、電気のブレーカーを落とす―こと。

揺れが来ることを知る「緊急地震速報」に関しては、地震が発生してから、強いゆれがくる前に地震の発生を知るしくみで、速報の発表から揺れるまでの時間が非常に短い。震源に近い地域では間に合わない。速報には誤報もある―とした。

「家にいるときの地震直後の行動を練習する」『揺れを感じたら迷わず安全ゾーン（部屋の中の安全地帯）に避難する。例えば「こたつ」の下に身を隠す、ザブトンを頭にあてがう』ことと述べた。

このほか「長周期地震動とは▽大きな地震がおきると、長い大きな揺れが発生する▽高層ビルなどの高い建物は大きく長い揺れで揺れやすくなる▽短周期（近い地震など）の場合、高層ビルは揺れが逃げるようにできている▽一軒家などは強く揺れる。近年、長周期地震動に遭遇する可能性が「上がっています」と指摘した。

◇

「災害から生き残る『風水害』」の項では「風水害はあらかじめ発生の予測と事前の対策が可能です（テレビ・ラジオ等で気象情報に気を付ける。自治体の防災メール、気象庁、ヤフー防災情報なども）。そして、窓ガラスの補強やカーテンを引く、飛散防止フィルムなども効果的。養生テープでもOK。大事なもの（家財道具）は2階以上に移動させる。水も土砂も始めにやってくるのは1階。家の周囲の鉢植えや物干し竿などを片付けるなどの対策を。強風や大雨が予想される場合は早めに対応して、無理して出勤しないこと」と話した。

「災害が発生した時には：とっさの対応【大雨、洪水、土石流編】」では「避難する場合は素足、長靴はダメ」といった注意点を述べた。

◇

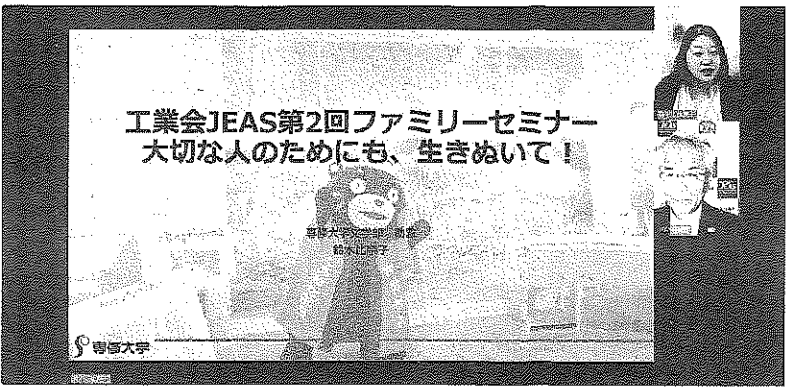
次に避難所について触れた。「避難所」には「避難場所」と「指定避難所」がある。前者は災害から身を守るところで、広域避難場所、一時避難場所などと呼ばれる。公園、神社、ビルなどで『生活をすることはむずかしい』。後者は一時的に生活をする場所で、指定避難所、福祉避難所などと呼ばれる。学校、公民館などで、地域の人の人数を考慮して計画しており『安全な場所にあるとは限らない』。「避難してください」は『命を守る避難』。早めの避難は早めの『命を守る』避難行動です。避難警報は全員が対象ではありません。自分の家の条件、状況を把握しましょう。家が安全なひとは家にいていい。大事なのは『避難行動』をとることです」としている。

避難所での注意点は「災害時は悪い考えをもった人が出る。みなさんが、おたがいにおたがいを守ろう。プライベートゾーンはとても大切な場所です。おトイレはかならず数人で一緒にいく。ひとりでいる子を襲ってきます。イヤなことをきいたり、悩みは打ち明ける」といったことを挙げた。

まとめとして「災害は失敗できません。人は失敗を繰り返して成長します。しかし、自然災害は失敗すれば死にます。（対策は）災害のことを知ること。自分の住む町、日本という土地の特徴を知ること。（そうすると）自分で考え、災害に対応できるようになります。いつ起きるかわからない災害に対して、繰り返し練習するしか方法がありません。災害時は、普段隠されているジェンダーの問題が噴出します。災害の大小は関係なく、その災害があった事実に寄り添うことが重要です。皆さん自身が率先して、周囲の方を守れることで、復興の足掛かりになります」と話した。

聴講者からは「今までは『なるべく避難せずにできるだけ我慢した方が良い』と勝手に思っていましたが、率先して避難する人になることが大事というのは目から鱗でした」（JEAS会員）。

また小学校6年生の男の子からは「避難所の生活の話を初めて聴いたので興味深かった」。小学校4年生の女の子からは「高台に避難した子供たちが津波を逃れたのがすごいと思った」と感想を述べていた。



1月16日（木）18:30オンライン開催　工業会JEAS第2回ファミリーセミナー「大切な人のためにも、生きぬいて！そのための防災講話」